箕山スポーツ医学塾（File №19）：大腿骨疲労骨折 Stress fractures of the femoral bone

よく診察すれば、意外と見つかる大腿骨疲労骨折。当院において、2004 年から確定診断したのは 23 例（骨幹部 20 例 頚部 3 例）です。そのうち X-ray（骨膜反応）のみで診断がついたのは 16 例。 MRI 撮影を要したもの 7 例。

① 発生部位に関係なく近位～遠位のあらゆる部位に疼痛を出す。
② 大腿部の筋が張って痛いなどの訴えがあり、触診で確かに筋の硬さがみられるが、ストレッチ痛や抵抗下痛はみられない。
③ その部位もしくは対側（外側に張りを訴えていれば内側）から、深く骨に達するまで圧すと強い痛みを訴える。（Fulcrum test よりもはっきりと疼痛が誘発される。）
④ 運動後、安静時痛もある。
⑤ ホップで疼痛がある。

などの特徴があります。

これらの所見がみられるときは、X-ray を 3 もしくは 4 方向で撮影すべきだと考えます。
よく見れば、わずかな骨膜反応も見逃すことはないと思います。